

# フラワーコーディネーターを目指して

花き装飾コース 甲斐 綾歌  
(指導教員: 吉田 久美子)

## 1. はじめに

私は、株式会社ティクアンドギヴ・ニーズに内定をいただき、卒業後フラワーコーディネーターとして働くこととなった。就職後、ブライダルの仕事に必要となるウェディングブーケの技術を身に付けるためにウェディングブーケの制作をテーマとした。デザインを決める際には、本校の先輩であり、ティクアンドギヴ・ニーズでフラワーコーディネーターとして活躍されている、小栗早稀さんのInstagramに載っているウェディングブーケや今流行しているデザイン、雑誌に載っているウェディングブーケを参考にした。3回の仕入れで7作品制作した。

## 2. 制作と学んだこと

「ぴょんぴょんクラッチブーケ(ポップ)」

	<ul style="list-style-type: none"><li>1回目…サイドに流れがないのでぴょんぴょん感がない。 →アンスリウムもワイヤリングする。デルフィニウムとオンシジュームは形状が似ているので左右に分けて飛ばして使う。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>6回目…花の形を見て右と左のどちら側に入れると良いのかが分かるようになった。ダリアが低い位置で目立たない。 →高価な花なので目立つようにフォーカルエリアに配置する。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>8回目…ダリアを後ろに配置してしまった。 →ダリアをもう少し目立つように配置し、オンシジュームやデルフィニウムを飛ばしてぴょんぴょん感を出す。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>10回目…完成 →ダリアが見えつつ、ぴょんぴょん感のある仕上がりにできた。</li></ul>

- ワイヤリングすることでデザインの幅が広がる。
- ワイヤリングをするときに花の形をよく見て、仕上がりを想像することが大切。
- 反対色の花を隣に配置するとより際立って見える。
- 外側の花弁を取り、花の大きさを調節することができる。

## 「パールブーケ」

		<ul style="list-style-type: none"><li>・カスミソウを全部同じ長さでまとめてしまい、花が下を向き、カスミソウの茎が見えている(写真左)。 →茎が見えないようにコイルでツイスティングメソードする。</li><li>・つぼみと一体感が増しスリムな形にできた(写真右)。</li></ul>
		<ul style="list-style-type: none"><li>・組み直し前…つぼみの輪数に対して全体的に長さが短くなってしまい、つぼみ一輪一輪が目立たなくなってしまった(全長 50 cm)。 →つぼみが目立つように全体的に長くする。</li></ul>
		<ul style="list-style-type: none"><li>・組み直し後…20 cmほど長くして組み直しを行った(全長 70 cm)。 →つぼみ一輪一輪が目立ち仕上がりが良くなった。</li></ul>

- ・垂れ下がるブーケを制作したのが初めてだったため、ワイヤーの太さだけでも揺れ感や印象が変わることに気づくことができた。
- ・キャスケードのように上の部分に大きいつぼみ下の部分に小さいつぼみにすることで全体の流れが良くなった。

「ヒヤシンスブーケ」は卒業制作発表時に報告とする。

### 3.まとめ

3回の仕入れを通して花選びの大切さを感じると同時に、自分の花選びの上達も実感することができた。ウェディングブーケを制作していく上で、花材の仕入れは特に大切だと思った。花材や色合わせによってイメージが変わるだけでなく、制作過程でどのように使うかを想像したり、仕上がりを想像したりして選ぶことが完成度の高いブーケの制作に繋がると感じた。また、仕入れを3回行う中で最初はどの花を選べばいいのか分からず戸惑っていたが、回数を重ねるごとにブーケの完成形をイメージしながら選ぶことができた。1回目では失敗も多くあったが3回目の仕入れではほとんど失敗のない仕入れを行うことができたと思う。自分で仕入れから制作までを行うことで、ブーケの原価を把握することもできた。花材の原価は想像よりも低く、制作技術や付加価値が価格に反映されていることを実感した。

卒業制作を通してウェディングブーケに関する知識や技術を高めることができた。入社後は今回の学びを活かしていき、たくさんの新郎新婦を笑顔にできるようなフラワーコーディネーターを目指していきたい。